第38回安全衛生大会　令和7年10月15日(水)　14:00～

＜安全講話　14:15～15:00＞
テーマ「労働災害防止について」

群馬労働局労働基準部　健康安全課
安全主任　藤井 信二　様

造園業の作業において欠かせない「はしごと脚立」。「はしご・脚立からの墜落・転落災害をなくそう!」ということで造園業における安全管理について、死亡災害の事例をあげて墜落防止対策やヒューマンエラーの数々、ヘルメット着用ポイントなど、短時間ではありましたが熱のこもった丁寧なお話をしていただきました。

＜出前講話　15:15～16:15＞
テーマ「防犯講座 ～身近な防犯知識～」

前橋市役所　共生社会推進課
園田 眞也　様

近年、特殊詐欺被害・ロマンス詐欺が群馬県でも多発していることを受けて、家の防犯対策としてセンサーライトの設置の重要性のほか、電話での巧妙な手口の例をあげながら、時にはユーモアを交えてお話しくださいました。

編集後記

遠い昔、吾妻渓谷や岩井洞にツキノワグマが檻の中で飼われていたのをご存知ですか?

幼い時に家族旅行の途中、クマを見たくて立ち寄った記憶があります。そんな記憶もあって自分にとってクマは可愛い印象でした。しかし今年はクマ被害のニュースが連日報道されていて、今はとても怖い存在となってしまいました……。

太陽光発電を設置するため樹木の大量伐採があったり、気候変動によってドングリやクリなどが生育不良で、クマにとって住みにくい環境となってしまっている現状があります。

実はクマの被害は毎年あるのですが、今年のように多発しているのは人間のエゴによる環境破壊がこのような結果を招いているのではないかとも言われています。いろいろと考えさせられる今日この頃です……。

(高野)

会報 造園群馬
No.99　令和7年11月21日
発行　一般社団法人群馬県造園緑化協会
前橋市朝日町3-12-20　TEL.027-243-5693
印刷　株式会社セリコ
高崎市福島町719-4　TEL.027-387-0111

みなかみ町「諏訪峡」

利根川の激流を利用したラフティングなど、様々なアウトドア・アクティビティのスポットとしても知られている。

名湯「水上温泉」のすぐ近く。美しい渓流と断崖や奇岩怪石の景勝地。

みなかみ町の諏訪峡は、水上温泉街に近い、利根川に沿って広がる美しい渓谷だ。利根川上流の、勢いのいい流れが長い年月をかけて作り出した。断崖や奇岩、怪石が連続する。

春の新緑、夏の濃緑の清涼感はもちろん、10月下旬から11月上旬にかけての紅葉がみごとで、自然の美しさを楽しめる。

諏訪峡遊歩道は、水紀行館を起点に、体力や時間に合わせてコースを選ぶことができる。諏訪峡の入り口にかかる吊り橋「笹笛橋」から眺める谷川岳と利根川の流れは絶景で人気がある。

遊歩道の途中には、歌人・与謝野晶子の歌碑が並ぶ公園もあり、文学の香りも漂う。

駐車場は「道の駅　みなかみ水紀行館」の駐車場(無料)が便利。ここが遊歩道の起点の一つになっている。

遊歩道が整備されているが、未舗装部分や坂もあるので歩きやすい靴で行くほうがいい。

遊歩道から見上げた諏訪峡大橋。水上観光の新名所となっている斜張橋。「みなかみバンジー(ブリッジバンジー)」はスリル満点のアクティビティとして人気がある。橋中央部分に飛び降りる場所が設けられている。

川沿いには遊歩道があり、散策しながら渓谷の景色を堪能できる。

第41回通常総会が開催される

●とき／令和7年5月31日（金）午後5時30分　●ところ／館林市 里沼リゾートHotel KOMORINU

久しぶりの館林会場、全議案が承認・可決。新入会員は4名

福田副会長の司会により順調に総会は進行された。

今回の会場は館林市で、日本遺産「里沼」の一つ城沼ほとりにある「ホテルこもりぬ」で定刻通り開催されました。司会の福田勝巳副会長により総会の開会宣言がされ、須永宣夫会長のあいさつでは、「久しぶりの館林ですね。県立館林美術館で二十数年前になりますかね」と館林で開催できたことのよろこびをまずは述べられました。

昨夏開催の「ものづくりフェスティバル2024 in Gメッセ群馬」において、「水鉄砲作り」が大盛況で終了し、主催者からもお褒めの言葉を頂いたというううれしい報告がありました。また「今年は隔年で行っている研修旅行が9月初旬に長野方面に予定しています。追って事務局から案内がいくので振るってご参加ください。本日の総会の審議が無事行われますよう、よろしくお願いいたします」と須永会長はあいさつを結びました。

続いて、令和6年度に亡くなられた桐生支部・佐藤啓介さんと会長まで務めた沼田支部・髙橋宏實さんの2名への黙祷が捧げられました。心からお悔やみ申し上げます。

特別会員表彰に、桐生支部・矢島貴さん、館林支部・福田均さん、藤岡支部・坂本一眞さん、太田支部・藤生博さんの4名です。所属の各支部長へ推奨状と長寿祝金が代理授与されました。

名誉会員になられた方は、みどり支部・南雲英利さんです。推奨状が支部長に代理授与されました。

新入会員は4名です。沼田支部・高橋忠義さんは残念ながら都合により欠席でしたが、出席の館林支部・栗原祥さん、近江威仁さん、太田支部・深澤克哉さんから自己紹介がありました。

この後、総会成立確認報告があり、出席者35名、委任状27名、会員総数74名で過半数37名を超え総会が成立。議長団の選出は「事務局一任」の声が上がり、議長は前橋支部の武藤敏彦さん、副議長はみどり支部の橋場則人さんが指名されました。議事録署名人の選出と書記の選任は「議事長一任」の声が上がり、議事録署名人に中里光重さんと馬場忍さんが指名され、書記は多田正広さんと渡邊不二夫さんが選任されました。

議長は武藤さん、副議長は橋場さんが選出された。

各議案はすべてスムーズに審議が行われ承認されました。会計監査報告については、監査報告を監事の木村重太郎さんと川島修さんから報告され、審議について異議なしと拍手多数で可決されました。

任期満了に伴う役員選出の議案ですが、今年は役員改選の年にあたり、各支部長より新しい役員の紹介があり拍手多数で承認されました。4期、7年目の任期となる須永会長への激励の声も上がりました。皆さまのご協力のもとよろしくお願いします。

最後に、退任理事感謝状の贈呈が須永会長より授与されました。副会長の太田支部・深澤直久さん、みどり支部・田村章さん、館林支部・石川治さん、藤岡支部・坂本一眞さん、太田支部・渡邊不二夫さんの5名です。

これですべての議案が承認され、通常総会が滞りなく閉会しました。この後は休憩をはさんで同会場で懇親会が和やかに行われました。

総会次第

1. 開会のことば
2. 会長あいさつ
3. 物故会員黙祷
4. 新入会員紹介
5. 永年勤続表彰（該当者なし）
6. 特別会員および名誉会員表彰
7. 総会成立確認報告
8. 議長団選出
9. 議事録署名人の選出および書記の選出
10. 議事
    - 第１号議案　令和６年度事業報告・会務報告
    - 第２号議案　令和６年度収入・支出決算報告書
    - 監査報告書
    - 第３号議案　任期満了に伴う役員選出の件
    - 第４号議案　令和７年度事業計画（案）
    - 第５号議案　令和７年度収入・支出予算（案）
    - 第６号議案　その他
    - 賛助会員名簿
    - 推奨・表彰・会員の動向
    - 報告事項
11. 議長団解任
12. 退任理事感謝状贈呈
13. 閉会のことば

新役員

会長	桐生支部	須永宣夫
副会長	桐生支部	福田勝巳
副会長	前橋支部	木暮幸一
専務理事	館林支部	篠原和浩
総務部長	太田支部	浅倉英太朗
監事	館林支部	木村重太郎
	前橋支部	川島修
支部長	前橋支部	深津和弘
	桐生支部	矢島進也
	みどり支部	久保田英美
	館林支部	牛久保重彦
	藤岡支部	原田道明
	太田支部	中里光重

名誉会員の（右）南雲さん（代理）と須永会長。

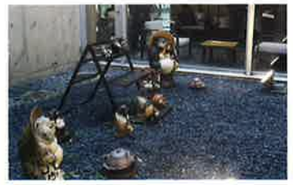
4期、7年目に突入となった須永会長。

新入会員の（左から）深澤さん、栗原さん、須永会長、近江さん。

特別会員は須永会長より、各支部長へ代理授与で行われた。

退任理事感謝状を授与された（左から）坂本さん（代理）、深澤さん（代理）、須永会長、石川さん、田村さん（代理）、渡邊さん。

新役員。支部長になった（左から）原田さん、久保田さん、牛久保さん、中里さん。



ホテルのエントランスでは、館林のシンボルたぬきたちも会員たちを歓迎。

第41回通常総会が開催される

●とき／令和7年5月31日（金）午後5時30分　●ところ／館林市 里沼リゾートHotel KOMORINU

久しぶりの館林会場、全議案が承認・可決。新入会員は4名

福田副会長の司会により順調に総会は進行された。

今回の会場は館林市で、日本遺産「里沼」の一つ城沼ほとりにある「ホテルこもりぬ」で定刻通り開催されました。司会の福田勝巳副会長により総会の開会宣言がされ、須永宣夫会長のあいさつでは、「久しぶりの館林ですね。県立館林美術館で二十数年前になりますかね」と館林で開催できたことのよろこびをまずは述べられました。

昨夏開催の「ものづくりフェスティバル2024 in Gメッセ群馬」において、「水鉄砲作り」が大盛況で終了し、主催者からもお褒めの言葉を頂いたというううれしい報告がありました。また「今年は隔年で行っている研修旅行が9月初旬に長野方面に予定しています。追って事務局から案内がいくので振るってご参加ください。本日の総会の審議が無事行われますよう、よろしくお願いいたします」と須永会長はあいさつを結びました。

続いて、令和6年度に亡くなられた桐生支部・佐藤啓介さんと会長まで務めた沼田支部・髙橋宏實さんの2名への黙祷が捧げられました。心からお悔やみ申し上げます。

特別会員表彰に、桐生支部・矢島貴さん、館林支部・福田均さん、藤岡支部・坂本一眞さん、太田支部・藤生博さんの4名です。所属の各支部長へ推奨状と長寿祝金が代理授与されました。

名誉会員になられた方は、みどり支部・南雲英利さんです。推奨状が支部長に代理授与されました。

新入会員は4名です。沼田支部・高橋忠義さんは残念ながら都合により欠席でしたが、出席の館林支部・栗原祥さん、近江威仁さん、太田支部・深澤克哉さんから自己紹介がありました。

この後、総会成立確認報告があり、出席者35名、委任状27名、会員総数74名で過半数37名を超え総会が成立。議長団の選出は「事務局一任」の声が上がり、議長は前橋支部の武藤敏彦さん、副議長はみどり支部の橋場則人さんが指名されました。議事録署名人の選出と書記の選任は「議事長一任」の声が上がり、議事録署名人に中里光重さんと馬場忍さんが指名され、書記は多田正広さんと渡邊不二夫さんが選任されました。

議長は武藤さん、副議長は橋場さんが選出された。

各議案はすべてスムーズに審議が行われ承認されました。会計監査報告については、監査報告を監事の木村重太郎さんと川島修さんから報告され、審議について異議なしと拍手多数で可決されました。

任期満了に伴う役員選出の議案ですが、今年は役員改選の年にあたり、各支部長より新しい役員の紹介があり拍手多数で承認されました。4期、7年目の任期となる須永会長への激励の声も上がりました。皆さまのご協力のもとよろしくお願いします。

最後に、退任理事感謝状の贈呈が須永会長より授与されました。副会長の太田支部・深澤直久さん、みどり支部・田村章さん、館林支部・石川治さん、藤岡支部・坂本一眞さん、太田支部・渡邊不二夫さんの5名です。

これですべての議案が承認され、通常総会が滞りなく閉会しました。この後は休憩をはさんで同会場で懇親会が和やかに行われました。

総会次第

1. 開会のことば
2. 会長あいさつ
3. 物故会員黙祷
4. 新入会員紹介
5. 永年勤続表彰（該当者なし）
6. 特別会員および名誉会員表彰
7. 総会成立確認報告
8. 議長団選出
9. 議事録署名人の選出および書記の選出
10. 議事
    - 第１号議案　令和６年度事業報告・会務報告
    - 第２号議案　令和６年度収入・支出決算報告書
    - 監査報告書
    - 第３号議案　任期満了に伴う役員選出の件
    - 第４号議案　令和７年度事業計画（案）
    - 第５号議案　令和７年度収入・支出予算（案）
    - 第６号議案　その他
    - 賛助会員名簿
    - 推奨・表彰・会員の動向
    - 報告事項
11. 議長団解任
12. 退任理事感謝状贈呈
13. 閉会のことば

新役員

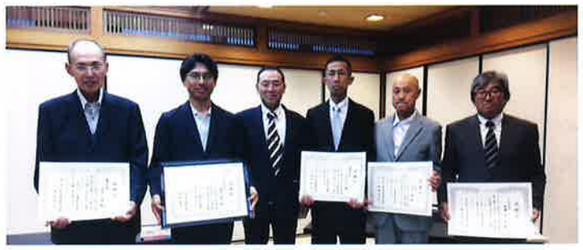
会長	桐生支部	須永宣夫
副会長	桐生支部	福田勝巳
副会長	前橋支部	木暮幸一
専務理事	館林支部	篠原和浩
総務部長	太田支部	浅倉英太朗
監事	館林支部	木村重太郎
	前橋支部	川島修
支部長	前橋支部	深津和弘
	桐生支部	矢島進也
	みどり支部	久保田英美
	館林支部	牛久保重彦
	藤岡支部	原田道明
	太田支部	中里光重

名誉会員の（右）南雲さん（代理）と須永会長。

4期、7年目に突入となった須永会長。

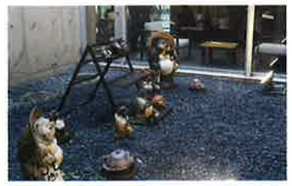
新入会員の（左から）深澤さん、栗原さん、須永会長、近江さん。

特別会員は須永会長より、各支部長へ代理授与で行われた。



退任理事感謝状を授与された（左から）坂本さん（代理）、深澤さん（代理）、須永会長、石川さん、田村さん（代理）、渡邊さん。

新役員。支部長になった（左から）原田さん、久保田さん、牛久保さん、中里さん。



ホテルのエントランスでは、館林のシンボルたぬきたちも会員たちを歓迎。

令和7年群馬県造園緑化協会 研修旅行

長野県駒ヶ根市

去る令和7年9月7日（日）・8日（月）の二日間にわたり、長野県駒ヶ根市へ研修旅行に行ってまいりました。他の造園関連の行事と日程が重なったこともあり、参加者はやや少なめでしたが集まった愉快な仲間たちとともに、和やかで充実したバス旅行を楽しむことができました。

参加会員の皆さまを各地区でピックアップしながら、県内をおよそ2時間かけて駒ヶ根市へと向かいました。訪れた駒ヶ根市は、中央アルプスと南アルプスの山々に囲まれた「アルプスがふたつ映えるまち」として知られており、豊かな自然に恵まれた風光明媚な観光地です。千畳敷カールをはじめとする山岳観光地、早太郎温泉、そして名物のソースかつ丼やそばなど、地元グルメも大変魅力的でした。

また、中央アルプスの豊富な雪解け水を活用した養命酒駒ヶ根工場や酒蔵、ワイナリーなども点在する水の恵みとともに発展してきた地域でもあります。この自然豊かな駒ヶ根の魅力を存分に味わえるよう、時間にゆとりを持たせた行程を組みました。

初日に訪れた「千畳敷カール」は、約2万年前の氷河期に形成された、氷河の侵食によるお椀型の地形で、標高2,612メートルの地点までロープウェイで一気に登ることができます。駅を降りた瞬間、眼前に広がる絶景には、思わず言葉を失うほどでした。なお、9月とはいえ日中の気温は20℃を下回っており、肌寒さを感じるほどでした。

宿泊先は、霊犬早太郎の伝説で知られる「光前寺」にちなんで名付けられた、早太郎温泉「二人静」。男旅にはやや ぜいたくな気もいたしましたが、アルカリ性単純温泉で、美肌効果もあることから「美人の湯」とも呼ばれています。

温泉でゆったりと旅の疲れを癒した後の宴会では、山の幸はもちろん、海の幸もふんだんに取り入れた料理が提供され、美味しい地酒とともに賑やかなひとときを過ごしました。翌朝は、多くの参加者が、雄大なアルプス山脈の稜線から昇る朝日を堪能していました。

千畳敷カール

千畳敷カールの植物

中央アルプス駒ケ岳ロープウェイ

宿泊先の早太郎温泉「二人静」

旅館敷地内にある「びんころ神社」

続いて訪れた「養命酒駒ヶ根工場」では、定番の養命酒のほか、趣向を凝らしたリキュールや珍しいお酒なども販売されており、思わず財布の紐が緩む場面も見受けられました。敷地内には清らかな雪解け水が流れ、新たに整備された立派な施設も完成しており、これらを無料で見学できるのは申し訳ないほどの充実ぶりでした。

昼食は、寒天やこんにゃく製品で有名な「かんてんぱぱガーデン」を訪れました。施設内には観光客向けの店舗や展示も充実しており、昼食後に新たに完成した「そば処」

二日目は、宿からほど近い「光前寺」へ参拝しました。霊験あらたかな霊犬早太郎伝説で有名な名刹であり、池を配した庭園の造りも見事で、歴史ある佇まいに、造園に携わる者として大変勉強になる訪問となりました（※伝説の詳細が気になる方は、ぜひ調べてみてください）。

養命酒駒ケ根工場

光前寺

かんてんぱぱガーデンで昼食

へと足を運び、新そばを味わった強者（つわもの）もおりました。

駒ヶ根市は、観光スポットがコンパクトにまとまっており、一本道を行き来するだけで多くの名所を巡ることができます。個人旅行でも十分に楽しめる、自然と観光の魅力が詰まった素晴らしい地域です。ご参加いただけなかった会員の皆さまも、機会がありましたら、ぜひ一度訪れてみてはいかがでしょうか。

最後になりますが、参加人数が少なかったのは残念でしたがその分、密度の濃い時間を過ごすことができました。次回は、より多くの皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

また、参加者の皆さまをはじめ、各支部や緑化協会の皆さまより多くのご協力や差し入れを賜り、おかげさまで充実した楽しい旅となりました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。誠にありがとうございました。　（福田勝巳）

（写真撮影／渡邊不二夫）

エッセー　木々是好日 38

群馬県は関東最大のリンゴ産地

新木としろう（グラフィックデザイナー）

日本のみならず、世界の多くの国々でも栽培される果樹リンゴ。日本には約2,000種、世界には約15,000種があるといわれている。

植物学ではバラ科リンゴ属の落葉高木に分類される。原産は中央アジアと考えられていて、紀元前から栽培されていたとされる。

明治時代、アメリカから苗木が渡来したのが「日本のリンゴ」の始まりだ。当時の呼称は単なるリンゴではなく「西洋リンゴ」だった。

日本での主産地ベスト3は青森、長野、岩手の各県で、この3県だけで日本の生産量の約8割を占めている。これは、リンゴ栽培に適した気候が「冷涼で寒暖差がはっきりしている」ことが大きく貢献しているからだ。

左は「赤城」。言うまでもなく、名は赤城山に由来する。果実は中玉で、鮮やかな紅色が特徴。果肉はやや軟らかでジューシー。酸味は強くない。右は「信濃ゴールド」。

群馬県は関東では最大の産地で、県はオリジナル品種の育成に力を注いでいる。県が推奨、特産としているものも含め、「ぐんま名月」「陽光」「あかぎ」「おぜの紅」「紅鶴」などがよく知られている。

果物としては非常に有用だが、木材としての利用価値はどうか。残念ながら、スギやヒノキなどのように建材として役に立つことはない。

その理由としては、まず、長く真っすぐな形状ではないことがあげられる。果樹として育てられるため、横方向へ枝を張る樹形にされるからだが、これは木材としての用途が制約されることに直結する。

もうひとつの理由は、節やこぶが多いために加工しづらく、コストが高くつくことだ。さらに、ひとつめの理由と同じく、用途が制約されることだ。

では、まったくの能無しで無駄になるかといえばそんなことはなく、そういった性質を活かしての使い道がある。

そのひとつは工芸品の材としての利用だ。しっとりとした質感や、使うほどに馴染みや深みが出る特徴を活かし、箸や食器、名刺入れなどとして活かされる。大きめのものとしてはスツールなどにも利用できる。

また、燃やしたときの香りが良いことから、肉などの燻製を作るためのウッドチップとして利用されたり、燃料として薪に利用される。

近年ではバイオマス発電（動植物由来の有機物を燃料とした発電）の燃料として活用されている事例もある。

リンゴの木は横方向に枝を張るように栽培される。収穫までには、樹形を整えるための剪定や誘因をはじめ、摘花や摘果、花摘み、玉まわしなどの作業が行われる。